

注：分類欄に記載されている記号は次の意味を表す。  
A＝「原因・理由を表すもの」、B＝「接続機能を持つもの」、C＝「無標」

原文		訳文					
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
5	「ほんの子供です*から*、 駅長さんからよく教えてやっ ていただいて、よろしくお願 いいたしますわ。」		3	“他还是个孩子，请站长先生常 指点他，拜托您了。”		C	C
8		三等車である。島村の真横で はなく、一つ前の向側の座席 だった*から*、横寝してい る男の顔は耳のあたりまでし か鏡に写らなかった。	5		宸宸眉古概。慢断議悉了音頁 壓戲斯議屎斤中，遇頁壓式斤 中，◆促參◆壓完橫詮貧哈陸 迦附棉彭議權俸橫繁議議円然。	A	A-36
8		娘の手を固くつかんだ男の青 黄色い手が見えたもの*から* 、島村は二度とそっちを 向いては悪いような気がして いたのだった。	5		島村看見那个男人蜡黄的手紧 紧攥廖甲弟議返，匆祥音控吭房 蹙斤中李率阻。	B	B-1
8		しかしそれは彼が心を遠くへ やっていた*から*の*こと で、気がついてみればなんでも ない、...	5		大概是他的心飞向了远方的緣 故。他定神看时，什么也没有。	C	C
8		娘は島村とちょうど斜めに向 い合っていることになる*の で*、じかにだっで見られる のだが、...	5		姑娘正好坐在斜对面，島村本是 可以直接看到她的，	C	C
9		遥かの山の空はまだ夕焼の名 残の色がほのかだった*から* 、窓ガラス越しに見る風景 は遠くの方までもの形が消 えてはいなかった。	6		在遥远的山崩上空，还淡淡地 残留着晚霞的余晖。透过车窗 玻璃看见的景物轮廓，退到埃 圭，拔短嘸囉陸，...	C	C
10		窓の鏡に写る娘の輪郭のまわ りを絶えず夕景色が動いてい る*ので*、娘の顔も透明 のように感じられた。	6		峪囉附啞陸壓完横詮議議部分，遮 住了窗外的暮景，然而，景色却 在姑娘的轮廓周围不断地移动， ◆使◆人觉得姑娘的脸匆No.頁 色宁議。	B	B-5
10		島村が葉子を長い間盗見しな がら彼女に悪いということ を忘れていたのは、夕景色の鏡 の非現実的な力にとらえられて いた*から*だったろう。	7		島村长时间地偷着叶子，却没 有想到这样做会对她有什么不 礼貌，他大概是被镜中暮景惟 嶽倡暫議蔭蔭哈蔭阻。	C	C
11		ところがそれから半時間ばかり 後に、思いがけなく葉子達も 島村と同じ駅に下りた*の で*、彼はまたなにか起るか と自分にかかわりがあるかの ように振り返ったが、...	7		约莫过了半小时，没想到叶子他 们也和島村在同一个车站下了 车，这◆使◆他觉得好像还会 起伏担揖徳失囉議議並議議，促 參蔭委遊阻陸阻蔭。	B	B-5
12		...雪国の冬は初めてだ*から* 、土地の人のいでたちに先 ずおびやかされた。	7		他是第一次遇上这雪国的冬天， 一上来◆就◆被当地人的打扮 吓住了。	B	B-1
14		彼女は彼を責めるどころか、 体いっぱいになつかしさを感 じていることが知れる*ので* 、彼は尚更、どんなことを 言ったとしても、その言葉は 自分の不真面目だという響 きしか持たぬだろうと思って ...	9		蔭状質欺慢音叙短嘘天姥徳失 議議吭思，反而在一心倾慕自己， 这◆就◆使他越发觉得此时自 己无论说什么，都只会被认为是 不真摯議。	B	B-1
14		女も濃い白粉の顔で微笑もう とすると、反って泣き面 になった*ので*、なにも言 わずに二人は部屋の方へ歩き出 した。	9		女子也想绽开她那浓施粉黛的 脸，结果适得风那，延攔阻匯陰 図疋議然。屈繁◆祥◆推担潮率 淚互仇型寂恹。	B	B-1
14		あんなことがあったのに、手 紙も出さず、会いにも来ず、 踊の型の本を送るという約束 も果たさず、女からすれば 笑って忘れられたとしか思 えないだろう*から*、先ず島 村の方から詫びかいいわけを 言わねばならない順序だった が、...	9		虽然发生过那种事情，但他没 有来信，也没有约会，更没有 信守诺言送来舞蹈造型的慕。壓 溺徨心柄，彈參率頁蔭匯、阻 軀，委傷失製阻。粹尖傍，戲賦頁 听乎逼粹型慢唐撰抵墊陽盾 匯桑議，...	C	C
15		その日は道路道路普請の落成 祝いで、村の繭倉兼芝居小屋 を宴会場に使ったほどの賑か さだ*から*、十二三人の芸 者では手が足りなくて、とう てい貰えないだろうが、...	10		那天刚好庆祝新铁路落成，村里 的茧房和戏棚也都用作了宴会 场地，异常热闹，十二三个艺妓 人手已经不够，怎么能叫来呢？	C	C
15		無為徒食の島村は自然と自身 に対する真面目さも失いがち な*ので*、それを呼び戻す には山がいいと、	10		島村无所事事，要唤回对自然和 自己容易失去的真摯感情，最好 是爬山。	C	C
16		師匠の家の娘なら宴会を手伝 いに行ったら、踊を二つ 三つ見せただけで帰る*から* 、もしかしたら来てくれる かも知れないとのことだっ た。	10		老师傅家的姑娘即便去宴会上 帮忙，顶多表演两三个节目就可 以回来，也许她会应召前来吧。	C	C
16		...半玉がなく、立って踊りた がらない年増が多い*から* 、娘は重宝がられてい る、...	11		这里没有年轻的，中年的倒很 多，却不愿跳舞。这么一来，姑 娘◆就◆更显得可贵了。	B	B-1
17		それにしても彼は頭から相手 を素人ときめているし、一週 間ばかり人間とろくに口をき いたこともない後だ*から* 、人なつかしさが暖かく溢 れて、女に先ず友情のような ものを感じた。	11		尽管如此，島村一开头就把她看 作是良家闺秀。加上他快一个星 期没跟别人好好闲谈了，内心自 然热情洋溢，首先对她流露出 一种依恋之情。	C	C
18	「それを君に聞いてるんじや ないか。初めの土地だ*から* 、誰がきれい分か分からん さ。」		12	“我不是在问你吗？我初来乍到 的，哪里知道谁漂亮。”		C	C

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
19	「君とさっぱりつきあいたい*から*、君を口説かないんじゃないか」		13	“我想清清楚楚地跟你交个朋友、◆才◆不向你求欢呢。”		B	B-6
20		女の声にあまり実感が溢れている*ので*、島村は苦もなく女を騙したかと、かえってうしろめないほどだった。	13		女子的声音充满了真挚的感情，反倒◆使◆岛村觉得这样轻易地欺骗了她，心里有点内疚。	B	B-5
20		それに彼は夏の避暑地を選び迷っている時だった*ので*、この温泉村へ家族づれで来ようかと思った。	13		而且，当时他还没决定夏季到哪儿去避暑，◆才◆想起是否要把家属带到这个温泉浴场来。	B	B-6
20		そうすれば女はさいわい素人だ*から*、細君にもいい遊び相手になってもらえて、退屈まぎれに踊の一つも習えるだろう。本気にそう考えていた。	13		幸好她是个良家女子，如果能来，还可以给夫人作个好导游，说不定还可以向她学点舞蹈，借以消愁解闷。他确实这样认真考虑过。	C	C
20		島村は東京の下町育ちな*ので*、子供の時から歌舞伎芝居になじんでいたが、…	14		岛村生长在东京闹市区，从小熟悉歌舞伎。	C	C
21		時々西洋舞踊の紹介など書く*ので*文筆家の端くれに数えられ、…	14		◆因为◆他不时写些介绍西方舞蹈的文章，◆也◆勉强算是个文人墨客。	A	A-5
23		師匠の家の娘だ*から*ではあるが、鑑札のない娘がたまに宴会などの手伝いに出て、咎め立てる芸者はないのだろう。	16		大约她是师傅家的姑娘——一个没有执照的女子，偶尔到宴会上帮帮忙，不会有哪个艺妓挑眼吧。	C	C
24		肌の底黒い腕がまだ骨張っていて、どこか初々しく人がよさそうだ*から*、つとめて興座めた顔をすまいと芸者の方を向いていたが、…	16		艺妓那两只黝黑的胳膊，瘦嶙嶙的，看上去还带几分稚气。人倒老实。岛村◆也◆就尽量不露出扫兴的神色，朝艺妓那边望去。	B	B-3
24		電報為替の来ていたことを思い出した*ので*郵便局の時間にかこつけて、芸者といっしょに部屋を出た。	16		他忽然想起有张电汇单已经送到，◆于是◆就借口赶钟点上邮局，便同艺妓一起走出房间。	A	A-38
24		島村がむっつりしている*ので*、女は気をきかせたつもりらしく黙って立ち上って行ってしまうと、一層座が白けて、…	16		她看见岛村绷着脸不说话，◆就◆默默地站起身来有意走了出去。这样就显得更加扫兴了。	B	B-1
24		それでももう一時間くらいは経つただろう*から*、なんと芸者を雇す工夫はないかと考えるうちに、…	16		这样约莫过了个把钟头。他在想：有什么法子把艺妓打发走呢？	C	C
25		その杉は岩にうしろ手を突いて胸まで反らないと目の届かぬ高さ、しかも実に一直線に幹が立ち並び、暗い葉が空をふさいでいる*ので*、しんと静けさが鳴っていた。	17		杉树亭亭如盖，不把双手撑着背后的岩石，向后仰着身子，是望不见树梢的。而且树干挺拔，暗绿的叶子遮蔽了苍穹，四周显得深沉而静谧。	C	C
26	「…お煙草忘れていらしたらしい*から*、持って来てあげたんですわ。」		17	“您忘记带烟了吧，我给送来啦。”		C	C
26		七日間の山の健康を簡単に洗濯しようと思いついたのも、実は初めにこの清潔な女を見た*から*だったろうかと、島村は今になって気がついた。	17		岛村以为在山上呆了七天，只是为了恢复恢复健康，如今才发觉实际上是◆由于◆头一回遇见这样一个隽秀婀娜的女子。	A	A-38
26	「僕は思いちがいでいたんだ。山から下りて来て君を初めて見たもんだ*から*、この芸者はきれいなんだろうと、うっかり考えてたらしい。」		17	“也许我想错啦。从山上下来第一个看到你，无意中以为这里的艺妓都很漂亮。”		C	C
27		細く高い鼻が少し寂しいけれども、その下に小さくつぼんだ唇まことに美しい蛭の輪のように伸び縮みがなめらかで、黙っている時も動いているかのような感じだ*から*、もし皺があつたり色が悪かつたりすると、不潔に見えるはずだが、そうではなく濡れ光っていた。	18		玲珑而悬直的鼻梁虽嫌单薄些，在下方搭配着的小巧的闭上的柔唇却宛如美极了的水蛭环节，光滑而伸缩自如，在默然无言的时候也有一种动的感觉。如果嘴唇起了皱纹，或者色泽不好，就会显得不洁净。她的嘴唇却不是这样，而是滋润光泽的。	C	C
27		少し中高の円顔はまあ平凡な輪郭だが、白い陶器に薄紅を刷いたような皮膚で、首のつけ根もまだ肉づいていない*から*、美人というよりもなによりも、清潔だった。	18		颧骨稍耸的圆脸，轮廓一般，但肤色恰似在白陶器上抹了一层淡淡的胭脂。脖颈底下的肌肉尚未丰满。她虽算不上是个美人，但她比谁都要显得洁净。	C	C
28		しかし宿屋中に響き渡るにちがいない金切声だった*から*、当惑して立ち上ると、女は障子紙に指をつっこんで棧をつかみ、そのまま島村の体へぐらりと倒れた。	19		可是她的尖声无疑已响彻整个客棧。岛村有点迷惑，刚想站起身来，女子就用指尖戳进纸拉门，抓住格椏，顺势倒在岛村的怀里了。	C	C
28		少しでも腕をゆるめると、女はぐたりとした。女の髪が彼の頬で押しつぶれるほどに首をかかえている*ので*、手は懐に入っていた。	19		稍松开手，女子就瘫软下来。他搂着她的脖子，她的发髻差点儿被他的脸颊压散了。他顺势将手探入她的怀里。	C	C
32	「まだ人の顔は見えせんわね。今朝は雨だ*から*、誰も田へ出ないから。」		21	“还不见行人呢。今早下雨，谁也没下地。”		C	C

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
32		女はむっとしてうなだれると、襟をすかしている*から*、背なかの赤くなっているのまで見え、なまなましく濡れた裸を剥きだしたようであった。	22		女子懊惱地低下头，和服后领敞开，可望到脊背也变得红殷殷的，宛如袒露着水灵灵的裸体。	C	C
33	「ええ、古い日記を見るのは楽しみですわ。なんでも隠さずその通りに書いてある*から*、ひとりで読んでいても恥ずかしいわ。」		22	“嗯。翻阅旧日记是我的快乐啊。不论什么都不加隐瞒地如实记载下来，连自己读起来都觉得难为情哩。”		C	C
35		しかし、そういう都会的なものへのあこがれも、今はもう素直なあきらめにつつまれた無心な夢のようであった*から*、都の落人じみた高慢な不平よりも、単純な徒勞の感が強かった。	24		但是，看上去她那种对城市事物的憧憬，现在已隐藏在纯朴的绝望之中，变成一种天真的梦想。他强烈地感到：她这种情感与其说带有城市败北者的那种傲慢的不满，不如说是一种单纯的徒	C	C
36		足が立たない*ので*、体をごろんごろん転がして、	24		她脚跟站不稳，摇晃两下◆便◆栽倒在地上了。	B	B-2
36		いずれにしろ、島村は彼女を見直したことはなる*ので*、相手が芸者というものになった今は反って言い出しにくかった。	24		不管怎样，岛村总算是重新评价了她。然而今天对方已当了艺妓，他反倒难以启齿了。	C	C
38		安心して高笑いがこみ上げて来る*ので*、湯口に口をあてて荒っぽく嗽をした。	26		他放心了，正要放声大笑，又急忙把嘴凑到泉口，胡乱地漱了漱口。	C	C
38		足の下畳までが冷えて来る*ので*、一人で湯に行こうとすると、…	26		连脚下的铺席也是冷冰冰的。他正要独自去洗澡时，	C	C
43		島村は女のこういう鋭さを好まなかった。けれども女をこんな風に鋭くするわけは、島村にも駒子にもないはずだと思われる*ので*、それでは駒子の性格の現われかとも見られたが、…	30		岛村不喜欢女人家这样厉害。但是使她这么厉害的，倒不是岛村或是驹子本人有什么道理，这也许可以看作是驹子性格的一种表现吧。	C	C
44		頭の上は屋根裏がまる出しで、窓の方へ低まって来ているものだ*から*、黒い寂しさがかぶさったようであった。	30		头上的屋顶全露出来，连接着窗子，房子显得很矮，黑压压的，笼罩着一种冷冷清清的气氛。	C	C
44		壁にも丹念に半紙が貼ってある*ので*、古い紙箱に入った心地だが、…	30		墙壁也精心地贴上了毛边纸，◆使◆人觉得恍如钻进了一个旧纸箱。	B	B-5
45		息子は小さい時から機械が好きで、せつかく時計屋に入っていた*から*、港町に残して置いたところ、間もなく東京に出て、夜学に通っていたらしい。	31		他则自幼爱摆弄机器，特意留在这个港市，进了一家钟表店。不久，好像到东京上夜校去了。	C	C
46		山袴の股は膝の少し上で割れている*から*、ゆっくり膨らんで見え、…	32		裤腿膝头稍上的地方开了叉，看起来有点臃肿。	C	C
46		派手な帯が半ば山袴の上に出ている*ので*、山袴の薄色と黒とのあらい木綿縞はあざやかに引き立ち、めりんすの長い快も同じわけで艶めかしかった。	32		那条花哨的腰带在雪裤上露出了一半，◆所以◆雪裤红黄色和黑色相间的宽条纹非常显眼，因而毛料和服的长袖也显得更加鲜艳了。	A	A-36
52		やがて坐り直してクリームで白粉を落とすと、余りに真赤な顔が剥き出しになった*ので*、駒子も自分ながら楽しげに笑い続けた。	36		不一会儿，又坐起来，用冷霜除去了白粉，脸颊便露出两片绯红，连自己也高兴得笑个不停。	C	C
55	「心にもないこと。東京の人は嘘つきだ*から*嫌い。」		38	“胡扯！东京人尽爱撒谎，讨厌！”		C	C
60		細く高い鼻は少し寂しいはずだけれども、頬が生き生きと上気している*ので*、私はここにいますという囁きのように見えた。	42		玲珑而慈直的鼻梁，虽显得有点单薄，但双颊绯红，很有朝气，仿佛在窃窃私语：我在这里呢。	C	C
62	「…私子供好きだ*から*、よく分るんだわ。…」		43	“我很喜欢孩子，◆因此◆很懂得孩子的心理，…”		A	A-37
62		島村も火燵から振り向いてみると、スロオプは雪が斑な*ので*、五六人の黒いスキイ服がのずくと裾の方の畑の中で亘っていた。	43		岛村也从被炉里回过头来看看，只见斜坡上的积雪花花搭搭的，五六个身穿黑色滑雪服的人在山麓那头的旱地里滑着。	C	C
66		またたび実の漬物やなめこの缶詰など、時間つぶしに土産物を買っても、まだ二十分も余っている*ので*、駅前の高小高い広場を歩きながら、四方雪の山狭い土地だなあと眺めていると、	46		岛村为了打发时间，去买了些木天蓼酱菜和香磨罐头一类土特产，还富余二十分钟，◆便◆走到站前稍高的广场上散步，一边眺望者周围的景色，一边想道：“这是布满雪山的狭窄地带”	B	B-2
67	「お客さまを送ってるんだ*から*、私帰れないわ。」		47	“我在送客人，我不能回去。”		C	C
68	「いまね、宿へ電話をかけたの、駅だつて言う*から*、飛んで来た。…」		47	“刚才给客栈挂电话，说你到了车站，我◆就◆赶来了。”		B	B-1
70		それは冷たい薄情とも、余りに熱い愛情とも聞える*ので*、島村は迷っている、…	48		听起来这好似冷酷无情，又好似过分多情，岛村有点迷惑不解了。	C	C
72		彼は聞くのがつらかったほどだ*から*忘れずにいるものだったが、…	50		他听了十分难过，◆以至◆难以忘怀。	A	A-40

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
72		蛾が卵を産みつける季節だ*から*、洋服を衣桁や壁にかけて出しっぱなしにしておかぬようにと、東京の家を出がけに細君に言った。	50		离开东京的老家时，妻子吩咐过：现在正是飞蛾产卵的季节，西服不要挂在衣架或墙壁上。	C	C
75	「こんなもの、お一ついかがです。祝いものでございます*から*、お慰みに一口召上ってみたら。」		51	“这东西，吃一个怎么样？是人家办喜事的，尝一口试试吧？”		C	C
76	「心にもないこと。東京の人は嘘つきだ*から*嫌い。」		53	“这不是真心话吧。东京人爱撒谎，讨厌！”		C	C
77		ちょうどその頃は雪が一番深い時であろう*から*、島村は鳥追いの祭を見に来ると約束しておいたのだった。	54		那时正是积雪最厚的时分，岛村同驹子相约来看赶鸟节。	C	C
78	「・・・売れることも一番で六百本を欠かすことはない*から*、うちでも大事にされてたんだけれど。」		55	“她最叫座，没少过六百枝的。她在咱们这儿最受器重啦。”		C	C
81	「ええ、こわいくらい。自動車の通うのが、例年より一月も遅れて、五月だったわ。スキイ場に売店だあるでしょう、あの二階を雪崩が突き抜けて、下にいた人はそんなことをしなくて、変な音がする*から*、台所で鼠が騒いだんだろうと行ってみてなんともない*から*、二階へあがると雪だらけじゃないの。・・・」		57	“是啊，真叫人害怕。汽车也比往年晚一个月，到五月才通车哩。滑雪场里有个小卖部吧，雪崩把它冲塌了，楼下的人还不知道，听到奇异的声音，以为是耗子在厨房里闹腾呢，上了二楼才看见满地都是雪了。”		C	C
81	「ええ、こわいくらい。自動車の通うのが、例年より一月も遅れて、五月だったわ。スキイ場に売店だあるでしょう、あの二階を雪崩が突き抜けて、下にいた人はそんなことをしなくて、変な音がする*から*、台所で鼠が騒いだんだろうと行ってみてなんともない*から*、二階へあがると雪だらけじゃないの。・・・」		57	“是啊，真叫人害怕。汽车也比往年晚一个月，到五月才通车哩。滑雪场里有个小卖部吧，雪崩把它冲塌了，楼下的人还不知道，听到奇异的声音，以为是耗子在厨房里闹腾呢，上了二楼才看见满地都是雪了。”		C	C
83	「メエトルだ*から*、電気を無駄づかいしちゃ悪いわ。」		58	“人家装了电表，用电灯太浪费，不好意思。”		C	C
84	「・・・うちに小さい子供が四人ある*から*散らかって大変なのよ。・・・」		58	“家里倘使有四个小孩，弄得乱七八糟的，那可是不得了。”		C	C
85	「ええ。お座敷でお客さんのくれるのを、そっと袂へ入れる*から*、帰ると何本も出て来ることもあるわ。」		59	“嗯。我把宴会上客人送给我的，全都悄悄放在袖兜里，回去以后，有时能抖落出好几支。”		C	C
88		年がちがう*ので*、たまにしか来ないと言う。	61		◆由于◆年齡相差很大，他只是偶尔来一趟	A	A-15
88	「・・・年期だ*から*、主人に損をしなければいいのよ。・・・」		61	“・・・期限嘛，不让主家吃亏就行。・・・”		C	C
88		一座敷で一本が自分の貰いになる*ので*、主人には損だが、どんどん廻るのだと言った。	61		赴宴一次，自己可以拿到一枝，因此对主家来说，虽吃点亏，但很快就会赚回来的。	C	C
91		自分の足跡も残っている山を、こうして眺めていると、今は秋の登山の季節である*から*、山に心が誘われて行くのだった。	63		现在又逢秋天登山季节，在这里远望着留下自己足迹的山峦，心儿不由得被整个山色所吸引。	C	C
95	「・・・眠れなかった*から*、髪を洗おうと思ったの。・・・」		66	“・・・睡不着，我想洗个头。・・・”		C	C
96	「・・・土曜日だ*から*、とてもいそがしいのよ。遊びに来られないわ。」		66	“今儿是星期六，特别忙，不能来玩了。”		C	C
96		彼女が掻き登ったという熊笹は通れそうもない*ので*、畑沿いに水音の方へ下りて行くど、・・・	66		看样子无法通过她刚才扒拉开草从登上来的那片山白竹了，◆所以◆只好沿着大田边向有水声音的方向走下去	A	A-36
97		まして、駒子がちょうど島村を駅へ送っていた時に、病人の様子が変ったと、葉子が迎えに来たにかかわらず、駒子は断じて帰らなかったために、死目にも会えなかったらしいということもあった*ので*、尚更島村はその行男という男が心に残っていた。	67		正好在驹子送岛村到车站的时候，叶子赶来告诉她：病人不行了，要接她回去。尽管如此，驹子坚决不肯回去。因此，好像临终也没有见上一面。◆由于◆曾经发生这种事，岛村越发记住那个叫行男的男了。	A	A-15
97		駒子はいつも行男の話を避けたがる。いいなずけではなかったにしても、彼の療養費を稼ぐために、ここで芸者に出たというのだから*、「真面目なこと」だったにちがいない。	67		驹子总是避而不谈行男的事。即使不是未婚夫妻，但为了给他赚一笔疗养费，不惜在这里当艺妓，那无疑◆也◆是一件“认真严肃的事情”吧。	B	B-3
98	「分らないわ、東京の人は複雑で。あたりが騒々しい*から*、気が散るのね。」		67	“东京人真复杂，实在难捉摸啊。周围吵吵闹闹的，心不在焉吧？”		C	C
98	「どうして？生きた相手だと、思うようにはつきりも出来ない*から*、せめて死んだ人にははつきりしとくのよ。」		68	“为什么？◆既然◆同活着的人无法把事情说清楚，至少对死去的人◆也◆要说明白啊。”		A	A-23

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
98	「私は一度も参ったことがない*から*、こだわりのよ、・・・」		68	“我一次也没有来过，是有点拘束哩。・・・”		C	C
98	「・・・今はお師匠さんもいっしょに埋まってるんです*から*、お師匠にはすまないと思うけれど、・・・」		68	“・・・现在师傅也一起埋葬在这里，我想起来，真对不起师傅。・・・”		C	C
98		栗をぶっつけられても、腹を立てる風がない*ので*、駒子は束の間訝しそであったが、ふいと折れ崩れるように縋って来て、・・・			島村虽然挨了一把栗子，可也没有生气的样子。驹子顿时觉得有点奇怪，一下子软瘫瘫地靠在岛村身上：	C	C
99		思いがけなく葉子に会った*ので*、二人は汽車の来るのも気がつかないほどだったが、そのようななかにも、貨物列車が吹き払って行ってしまった。	69		意外地遇见叶子，◆以至◆两人几乎没有留意火车奔驰而来，这一下子仿佛什么都给这列货车刮跑了。	A	A-40
100	「弟が乗っていた*から*、駅へ行ってみようかしら。」		69	“我弟弟乘这趟车，我真想到车站去看看。”		C	C
101	「ああ厭だ。もう髪を結うのを止めた。あんたがよけいなことを言う*から*、あの人の墓参りを邪魔しちゃった。」		70	“啊，讨厌！我不去梳头了。就是你多嘴多舌，打扰了人家上坟。”		C	C
102		駒子はうんと仰反って転がるものだ*から*、島村は重苦しくなって起き上ろうとしたが、・・・	71		驹子“嗯”地一声，猛然把身子仰了过来滚动着，岛村被压得难受，想爬起来，・・・	C	C
103	「これで来た*から*、帰る。髪を洗うのよ。」		71	“◆既然◆来过了，这◆就◆回去，我洗头去啦。”		A	A-22
104	「お友達に悪い*から*行くわね。帰りにもう寄らないわ。」		72	“让朋友久等了，我该走啦。回来就不再到你这里了。”		C	C
106		溪流の奥の紅葉を見に行く*ので*、彼は駒子の家の前を通ったことがあったが、・・・	73		他去溪流尽头观赏红叶，曾打驹子门前走过。	C	C
107		その時彼女は車の音を聞きつけて、今は島村にちがいないと表へ飛び出てみたのに、彼はうしろを振り返りもしなかったのは薄情者だと言ったほどだ*から*、彼女は宿へ呼ばれさえすれば、島村の部屋へ寄らぬことはなかった。	73		那时候，她听见车声，断定又是岛村，便跑到外面来看。岛村却连头也不回。她就说他是个薄情郎。她只要被唤到客栈，没有不去岛村的房间的。	C	C
107	「つらいわ。三十人の相手に三人しかないの。それが一番年寄と一番若い子だ*から*、私がつらいわ。」		74	“真够呛啊！三十个客人，只有三个人陪。她们又是一老一少，我够够呛哩。・・・”		C	C
108	「土地が狭い*から*困るだろう。」		74	“地方小，不好办吧？”		C	C
111		瀬戸物の音が遠く聞えたりする*ので*、駒子も客に連れられて別の宿の二次会へ廻ったのかと思っていると、葉子がまた駒子の結び文を持って来た。	77		间或听到远处传来了杯盘的碰撞声。岛村心想：驹子也许被客人带到别的客栈，参加第二场宴会去了吧？这时，叶子又送来了驹子的折叠字条。	C	C
113	「うちの人って、鉄道へ出ている第一人です*から*、私がきめちゃっていいんです。」		78	“什么家里人，我只有一个在铁路上工作的弟弟，我自己决定就行。”		C	C
113	「駒ちゃんはいいいんですけれども、可哀想なんです*から*、よくしてあげてください。」		78	“驹姐是个好人，可是挺可怜的，请你好好待她。”		C	C
113		こともなげに、しかし真剣な声で言う*ので*、島村は驚いた。	78		她若无其事，然而语气却是认真的。岛村大为吃惊。	C	C
114	「駒ちゃんですか。駒ちゃんは憎い*から*言わないんです。」		78	“你是说驹姐？她真可恨，我不告诉她。”		C	C
118	「・・・ここにお座敷があった*から*いいようなもの、お友達が帰りにお湯へでも誘ってくれて、私が家にいなかったら、あんまりだわ。」		81	“要是宴会在这儿举行还可以，不然朋友们回头找我去洗澡，我不在家，那就不好了。”		C	C
121	「お客さんのくれるのを袂へ入れたり帯に挟んだりして帰る*から*、こんなに皺になってるけれど、汚くはないの。・・・」		83	“是客人送的，我把它放在袖兜里或夹在腰带里带回来的。都成了这样皱皱巴巴的，但是并不脏。”		C	C
121	「私一人だ*から*広いことは広いよ。」		83	“我一个人住，宽倒很宽。”		C	C
121		島村は寝息の温みに押し返されるように、思わず表へ出ようとしたけれども、駒子がうしろの戸をがたびしめて、足音の遠慮もなく板の間を踏んで行く*ので*、島村も子供の枕もとを忍ぶように通り抜けると、怪しい快感で胸が顫えた。	83		岛村像是被一股温暖的鼾声推了回来，不由得要退到外面，驹子砰地一声把后门关上，无所顾忌地踏着重重的脚步，走过木板间。岛村◆只好◆从孩子们的枕边轻轻地擦身而过。一种无以名状的快感在他的心头激荡。	B	B-9
122	「あら、燗ががないわ。自分が煙草を止めた*から*、いらぬよ。」		83	“哎呀，没有火柴。◆因为◆我戒烟了，也◆就◆不需要了。”		A	A-4
122		話の継穂がない*ので*、島村はそそくさ立上った。			岛村接不上话茬，◆就◆急忙站了起来。	B	B-1
124	「・・・つらい*から*帰って頂戴。・・・」		85	“・・・我心里难受，你还是回去吧。・・・”		C	C

原文			訳文				
ページ	会話文	地の文	ページ	会話文	地の文	対訳	接続語No
126		廊下に隠れて立ったまま、部屋へ入って来そうもない*ので*、島村が手拭を持って出て行くと、駒子は目を合わせるのを避けて、少しうつ向きながら先に立った。	86		她就那么站着躲在走廊上，并没有要进屋的意思。岛村手拿毛巾走了出来。驹子避开他的目光，低下头走在前面。	C	C
128		娘達が半年の丹精で織り上げたのもこの初市のためだ*から*、遠近の村里の男女が寄り集まって来て、見世物や物売の店も並び、町の祭のように賑わったという。	88		姑娘们用半年心血把绉纱织好，也是为了这首次上市。远近村庄的男男女女都聚拢到这儿来了。这儿摆满了杂耍场和杂货摊，就像镇上过节一样，热闹异常。	C	C
128		踊の方の縁故から能衣裳の古物などを扱う店も知っている*ので*、筋のいい縮が出たらいつでも見せてほしいと頼んであるほど、この縮みを好んで、一重の縮襷にもした。	88		◆由于◆从事舞蹈工作的关系，他认识了经营能乐旧戏服的店铺，拜托过他们：如有质地好的绉纱，请随时拿给他看看。他喜欢这种绉纱，也用它来做贴身的	A	A-15
129		旧の一月から二月にかけて晒す*ので*、田や畑を埋めつくした雪の上を晒場にするこもあるという。	88		◆因为◆在一月至二月间曝晒，据说也有人把覆盖着积雪的水田和旱地作为曝晒场。	A	A-1
129		もっとも東京の古着屋が扱ってくれる*ので*、普通の晒し方が今に伝わっているかどうか、島村は知らない。	88		不过，◆因为◆是交由东京的估衣铺去办，古老的曝晒法是否会流传至今，岛村◆就◆不得而知了。	A	A-4
129		しかし島村は縮を着る真夏にも縮を織る真冬にも、この温泉場に来たことがない*ので*、駒子に縮の話をしてみる折はなかった。	89		不过，岛村没有在穿绉纱的仲夏，也没有在织绉纱的严冬来过这个温泉浴场，◆从而◆也就没有机会同驹子谈起绉纱的事。	A	A-70
131		現在機業地に発展している大きい町が見たいというのではない*ので*、島村はむしろ寂しそうな駅に下りた。	90		他又不是想去看看正在发展成纺织工业区的大镇，◆因此◆索性在一个冷落的小站上下了车。	A	A-37
132		同じ雪国のうちでも駒子のいる温泉村などは軒が続いていない*から*、島村はこの町で初めて雁木を見るわけだった。	91		同样是在雪国，但驹子所在的温泉乡，房檐并不相连。岛村到了这个镇子才头一回看到这种“雁木”。	C	C
132		なにも見るものがない*ので*、島村はまた汽車に乗って、もう一つの町に下りてみた。	91		没有什么可观赏的，◆于是◆岛村又乘火车来到了另一个镇子。	A	A-38
138		石段の下では火事が人家にかくれて燻の頭しか見えないところへ、擦半鐘が鳴る*ので*、なお不安が増して走った。	96		在石磴下面，火场被房子挡住，只能看见火舌。火警声响彻云霄，◆令◆人越发惶恐，四外乱跑。	B	B-7
140	「私が笑われる*から*、帰って頂戴。」		97	“人家会取笑我的，你快回去吧！”		C	C
141		小太りの島村は駒子の姿を見ながら走っている*ので*、なお早く苦しくなった。	97		发胖的岛村一边瞧着驹子一边跑，早◆就◆感到疲惫不堪了。	B	B-1
143		天の河はその山波の線で切れるところに裾をひらき、また逆にそこから花やかな大ききで天へひろがってゆくようだった*から*、山はなお暗く沈んでいた。	98		银河向那山脉尽头伸张，再返过来从那儿迅速地向太空远处扩展开去。山峦更加深沉了。	C	C
145		板葺板壁に板の床だけでがらんどうだ*から*、屋内にはそう煙も巻いていないし、…	100		木板屋顶、木板墙和木板地都荡然无存。屋内不见怎么冒烟了。	C	C
146		その二階から落ちた*ので*、地上までほんの瞬間のはずだが落ちる姿をはっきり眼で追えたほどの時間があつたかのように見えた。	100		从这二楼摔落到地面只是一瞬间的事，可是却让人有足够的时间可以用肉眼清楚地捕捉到她落下时的样子	C	C